第四次周南市子ども読書活動推進計画策定委員会（第二回）会議録

【日時】　令和６年12月16日（月）10：00～12：00

【場所】　周南市シビック交流センター２階　交流室７

【出席者】　委員　９名（うち１名WEB参加)、事務局　４名

〈次第〉

（１）第四次周南市子ども読書活動推進計画（案）について

（２）意見交換

（３）その他

◇館長挨拶

◇前回欠席者自己紹介

◇会議の成立

◇議事

（会　長）：議題１・素案について

（事務局）：＜素案について説明＞

（会　長）：事務局からの説明についてご質問等をお願いします。

（委　員）：章立てが変えられて、分かりやすくなった。P.3の不読率について、全国の調査と市のアンケートでは取り方が違う。比較ができない。今後は合わせた方が良いと思う。

読書手帳について、計画は５か年計画だが毎年配るのか。

（事務局）：１回目は全小中学生に配布。翌年からは毎年新しく入学される小学生に配布。いっぱいになったら配布する。

（委　員）：２冊目以降は？

（事務局）：２冊目以降は、申し出により発行。

（委　員）：学校が図書館に連絡して手配して、新一年生には新しいのが配られる？

（委　員）：中学生は？

（事務局）：小学校からの引き続き。

（委　員）：家庭でも使える？学校だけ？

（事務局）：更新の詳細は未定。学校経由か個人が図書館に来館かは検討。基本的には学校ではなく図書館が主体となって行っていく事業。計画期間に関わらず続けていきたいと考えている。

（会　長）：アンケート調査については？

（事務局）：アンケート時にそこまで考慮していなかったので今後は全国平均と比較できるようにしたい。タイミングを計りながら。

（委　員）：前回と比べて、基本方針２、高等学校、大学との連携が追加されている。大学生に対して、「読んでほしい本を紹介するとか、あえてここに加える必要があるのか。

（事務局）：計画としての対象は１８歳以下だが、大学との連携をすすめている一環で取り組みたい。

（委　員）：大学生へ読み聞かせの重要性を伝えるなどは必要。「読んでほしい本～」は必要？組織としての連携を書いてほしい。

大学図書館の本も借りられる？周南公立大学になったから活用できることを前面に。周知をしてほしい。

（会　長）：徳山大学時代から市民に開放している。

（委　員）：横断検索で大学の本を市立図書館で受け取ることもできる？

（会　長）：できる

（委　員）：もう少しアピールしてほしい。

（事務局）：システムは連携していないので、大学図書館のホームページで検索か、市立図書館の窓口で検索できる。

（委　員）：子ども読書の日を周知させることでどのような効果があるのか。

（事務局）：子どもの読書意欲を高めることが趣旨。読書のきっかけづくり。取り組みの

継続は必要だが、ひとつのきっかけとして効果的に使っていきたい。

（委　員）：図書館見学・職場体験は第三次計画からの取り組み？

（事務局）：それ以前から行っている。

（委　員）：見学は受け入れやすいと思うが、職場体験は実施回数、人数は希望通りに受け入れできているか。

（事務局）：学校からの要望に応じて受け入れをしている。学校を通じた職場体験以外にも司書体験を行っている館もいくつかある。

（委　員）：参加した子どもの話も聞いた。今後も続けてほしい。

（事務局）：好評な事業であり、続けていきたい。

（委　員）：学校司書について。前回、司書は配置されていない学校もあると聞いた。司書の人数を増やして指導員を減らすというのは、司書の全校配置を目指しているのか。学校図書館の５か年計画には、そういった文言は入っているか。

（事務局）：学校図書館の配置について、今回の計画では具体的に数値をあげていない。予算や方針もあり見通しが立てにくい。学校図書館の充実に関する働きかけは、現場に対するバックアップも含めて進めていきたい。

（委　員）：図書館の環境整備。ハード面、ソフト面合わせて、児童サービスに特化して行えないか。

（事務局）：中央図書館では、子どもが立ち寄りやすい雰囲気になるよう整備している。スペース的に専用のカウンターは設置できないが、職員の技能向上など心がけていきたい。

（委　員）：P.7「うちどくコンテスト」の目標値について。R5 の目標値に対して R6 の目標値が高すぎる気がするが、どういった取り組みをして増やそうとしているのか。

（事務局）：P.7 の目標値は、第三次計画時点での数値で第四次計画の目標指標は P.20 に示してある通り、修正している。周知や働きかけを積極的にしていきたい。

（委　員）：読書手帳について。管理は？使わない子もいるのでは？学校との連携ができるとよい。

（事務局）：基本的には図書館が管理。学校とも必要に応じて連携していきたい。

（委　員）：母推の活動で、ブックスタートの本を届けている。届けた時に本の読み聞かせについて、「ひざにのせて読ませてください」「いろんな本を読んでください」という声掛けをしている。母推の声掛けで「うちどく」も件数が増えると良いと思う。

（委　員）：若い先生が増えて、昔ながらの本を手に取る機会が減っている。研修会で発信していただけたら。幼稚園・保育所等の取り組みは、改めて大事なことだと周知することが必要と感じた。

（事務局）：研修会は、学校には行くことがある。幼稚園・保育所等にも広げたい。

（委　員）：図書館の見学は、幼稚園、保育所等も可能であれば行かせてほしい。発信してほしい。

（事務局）：積極的に受け入れたい。ＰＲしていきたい。

（委　員）：司書の配置。予算の関係で仕方がない部分もある。司書教諭は授業数の軽減がないので、通常の授業にプラスして選書などの業務をすることになる。予算で人員配置が難しいのであれば、授業数を減らすなど、先生の負担軽減があればよいと思う。

子ども読書の日について。学校でポスター掲示はしているが、なぜ必要かまでは説明できていない。イベントを中学生のボランティアなどでやれば、子どもに読書の大切さを知ってもらったり、図書館に行くきっかけになるのでは。山陽小野田市の取り組みで、学校と図書館が連携して、中学生がおすすめの本を紹介するポスターを作り、図書館に展示していた。そういった取り組みは中学生が図書館に行くきっかけになるのでは。

（事務局）：学校現場のことについては回答が難しい。山陽小野田市の取り組みは承知している。読書活動の中心は図書館であると考えているので、そこと様々なつながりを持って、興味を持ってもらって足を運んでもらって、読書の推進につなげる取り組みをしていきたい。

（委　員）：子供向け行事について。回数と人数の目標値の設定について。回数は減って、人数は増えているが。

（事務局）：目標値は第三次計画のもの。

（委　員）：読書手帳。作成段階で、学校などに説明をしたほうがよかったのでは。学校での読書活動、家庭での読書活動に活用できるように。市民全体に周知できるようにアピールしてほしい。「うちどくコンテスト」の目標値。コンテストではなく、「すすめ」のようにしたらどうか。中身の検討を。

（事務局）：読書手帳、ＰＲ方法考えたい。「うちどくコンテスト」ＰＲ進める。コンテストなので、表彰をしている。読書感想文とはちがうので、かたひじをはらずに参加してもらいたい。

（会　長）：素案については、ご意見をいただいたということで。意見交換として、読書活動全般についてご意見を。

（委　員）：テレビで「味見読書」の取り組みを見た。学校図書館で、少しだけ本を読んで簡単な感想を書いて、その感想を見て興味があれば借りて読む、といった取り組み。

（委　員）：ボランティア団体との連携。図書館では難しい？点訳ボランティア（熊毛）、こどもゆめまつりで展示コーナーをつくってもらった。地域のボランティア団体との連携は、まちづくり総合計画にも入っていると思う。今あるものを掘り起こして活用を。

中央図書館が暗い。工事中でイベントをやる雰囲気ではない。

読書手帳、「書く」ということはハードルが高い。下松図書館はＡＴＭのように印刷できる。

（事務局）：中央図書館のハード面は、現在空調の工事中。照明のＬＥＤ化も段階的にやっているところ。環境整備を進めている。

（会　長）：下松の読書通帳は印刷できる？

（事務局）：読書手帳の導入に際して、読書通帳についても検討はしたが、より自由な発想で利用できるシール式の読書手帳を採用。

（会　長）：楽しくできれば書くことも苦ではないのでは。

（委　員）：学校とかそれぞれの機関でいろいろな取り組みをしている。たとえば小学校の「親子読書カード」とか、あれもこれもだと難しい。市として「今年度はこれに取り組む」といった連携が取れていれば、学校も取り組みやすい。

５か年計画なら、改定もできる。ひろく意見を取り入れて。

（委　員）：読書手帳。学校と図書館でどっちつかずになるのでは。幼稚園でも貸出カードがあるので、同じような取り組みだと思った。

（委　員）：文化祭で先生のおすすめの本を展示。大人が発信するときっかけになる。

（委　員）：ビブリオバトル。誰かのおすすめの本は読みたくなる。

（委　員）：ビブリオバトルは大学生が始めた取り組み。地域の大学生が小学校とかでやっていた。ゲーム感覚で楽しめる。公立大学との連携の中で、こういった取り組みもできるのでは。

中央図書館、返却日の紙は図書館で作成している？レシート印刷にするなどして、空いた時間で掲示などの環境整備をされては。ハード面の予算は難しくても、ソフト面で工夫をすればよいと思う。地域の力も活用して。

（事務局）：自分たちだけでは限界もある。通常業務が忙しくて、他に手が回らない部分もあるが、日常の業務の効率化を図り、お客様の見ていただく部分に注力できれば。

（委　員）：娘が友達と本の貸し借りをしている。ホームページなどで、１０代の声を聴くことができれば。ネットで検索出来れば、図書館に行けなくても同年代のおすすめの本を知ることができて、借りることも増えるのでは。

（事務局）：図書館には展示コーナーなどがあるが、来館しなくても気軽に情報が見られる方法も考える必要がある。

（会　長）：ネットで見られるものはあるか。

（事務局）：現在ホームページのリニューアルをしていて新しいホームページでは、おすすめの本を紹介するページも作ることができる。おすすめするのは図書館職員になるので、１０代の利用者が直接おすすめするものではない。

（会　長）：外部からの書き込みは、セキュリティなどもあって難しいのでは。工夫が必要。若い人の意見が取り入れられることは重要。

（会　長）：意見交換は以上で。その他、事務局から。

（事務局）：１月にパブリック・コメント実施、３月に決定、４月から実施。